

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年6月12日作成

学校法人華園学園藤ヶ丘幼稚園 園長 齋藤しのぶ

## 1. 本園の教育目標

### ◆教育目標

『つよいこ よいこ がんばるこ』

### ◆教育方針

- ・からだをきたえて元気な子どもになります
- ・誰にでも親切にする優しい子どもになります
- ・よく考えて一生懸命がんばる子どもになります

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育において育みたい資質、能力の三つの柱（知識及び技能の基礎・思考力・判断力・表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等）の視点から子どもの育ちを捉えること。子どもの育ちに寄り添った環境構成や質の高い保育の提供を職員自身が主体的に取り組む。子どもたちが主役であり、それを支えるのが教諭である。また、地域との交流を再開し、多様な人との関わり方を学ぶ機会を保障する。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取組状況・考察
1	教育課程・カリキュラムを見直し改善を図る	B	主幹教諭が中心となり、次年度の教育課程の編成に従事した。教育課程はあくまでも見通しであり、完成に至るにはその時の子どもたちの姿が導くと認識している。職員自身が教育課程を意識して、子どもたちがどう育ってほしいのか、日々の保育計画の中に落とし込んでいく必要がある。職員それぞれの理解には課題は残るが、今後の保育計画を再確認し、理解度をあげていきたいと考える。
2	教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	A	園内研修の充実は当年で3年目。職員の学びの姿勢は年を増すごとに積極性が見られる。園外の研修には2人以上で参加することを職員が意識し、研修で得たものを他の職員に伝えることに重点を置いた。公開保育に参加した職員は環境構成の充実に、教育実習の在り方の研修に参加した職員は実習生から自園の保育の見直し等に取り組んでいた。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	A	支援を必要とする子どもたちの増加、どんな支援がその子には必要なのか、職員一丸となって取り組む姿勢があった。その保護者への対応も関係機関に相談しながら進めていくことが出来た。その子の気持ちに寄り添い、一緒に参加できる場合、個別対応が必要な場合を担当の職員と子どもで決めることを尊重した。そのことを保護者自身も受け止めてもらえるように支援担当教諭が中心となり取り組んだ。まだまだ難しさは感じるが職員の子どもたちへの思いが少しずつ保護者にも伝わっていると感じる。
4	地域との交流	A	インターンシップ受入の発信から札幌市南陵高等学校との交流が計画的に行われた。将来の教諭希望の後押しになる交流になっている。藤野南小学校とも継続的に交流を行っている。大学生との交流も実施することができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>これからの予想が困難な新しい時代に対応する資質・能力を子どもたちに育むことが求められている。社会に開かれた教育課程の実現を幼稚園・家庭・地域の関係者で共有していくことが求められる。「人間の基礎、学びの基礎」を形成する一端が幼稚園であることを理解し、園の改善と充実を今後も目指したい。</p> <p>自然豊かで恵まれた環境にあることから、地域の施設を積極的に利用し、地域の人たちに見守られていることを知り、地域から愛される子どもたちに育っていると考える。また質の高い教育活動を目指し、環境構成については計画、実践、評価のサイクルで実践を通して見直しを今後も図っていくことが重要である。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的取組方法
1	環境	<p>保育内容については「量より質」を重視。</p> <p>4学年が混在して遊ぶ自園はしぜんと年長組に憧れる子どもたちが多くいる。その状況を理解している教諭が臨機応変に、年齢が低い子どもたちでも挑戦できる環境作りに取り組んでいた。他の教諭とも実践を共有し、教諭自身の主体的な取り組みが今後も望まれる。</p> <p>「遊び」の環境構成に重点を置くあまり、教室の整理整頓が課題。</p> <p>隣接する保育園との連携が課題。共有スペースの有効活用、園児・職員同士の交流、伝達の理解相違等、職員同士で解決していくことが重要である。</p>
2	安全管理	<p>照明器具のLDE化、各教室にエアコンを設置、ICT化の充実。限られた予算の中で少しずつではあるが子どもたちが安心して過ごせる施設として改善改修に努めている。</p> <p>トイレや収納スペースの確保など、大規模な改善には至っていない。依然、園舎・園舎設備の老朽化が課題。今後、地域や社会情勢を踏まえ、園のあり方をトップレベルで取り組んでいかなければならないと考える。</p>
3	幼保小接続 地域とのつながり	<p>幼保小接続：交流は計画的に行うことができたが、内容的には始まったばかり。今後はねらい達成のための指導案作成を行い、子どもたちの姿を読み取る。教諭がしっかりとしたねらいを持つことで子どもたちの活動も充実したものとなる。</p> <p>南陵高等学校・大学生との交流：人と交流することの楽しさをたくさん感じて欲しい。その子なりに自己発揮できるようになってほしい。自分でもできる！このひと面白いな！楽しいな！たくさんの経験が子どもたちの土台になってほしいと願う。</p>
4	保護者への発信 保護者支援	<p>保護者アンケートを行った。お子さんのこと、園のことを見守ってくれている姿勢があると感じる。教育課程の編成について、特色ある教育に期待していた保護者の方たちがいる。子どもの体力の向上、教育目標や保育方針について御理解いただけていない部分があると感じる。また、環境構成についても、具体的内容の良さが保護者の方に伝わっていない部分がうかがえる。子どもたちが育っている姿を伝え、成長の姿を共に喜んでいきたい。また、ICTをうまく活用し、避難訓練や危機管理の状況についても保護者に発信し、安心安全対策を共有する必要がある。</p> <p>お子さんの困りを相談できる園であること、また職員ひとりひとりが相談相手として保護者に寄り添えるように職員の育ちを促していきたい。</p>

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

令和6年3月5日学校関係者委員会を開催、意見交換を行う

北海道札幌南陵高等学校との交流を大変喜んでいました。

地域の子育てサロンと幼稚園の交流状況を報告。担当者同士での意見交換。地域の子育てサロンの役割を直接知ることが出来た。幼稚園の保護者に発信を行う。次年度は発展的な交流が出来ると良い。

コロナ禍を経て、地域交流も新しい在り方が問われているが、どの世代と交流しても地域に貢献できる施設であってほしいという願いが伝わってきた。

→この評価を受けて、より良い運営にしていきたいと考える。園長